母性看護学

構成の考え方とねらい

「母性看護学」は基礎分野、専門基礎分野の上に位置づく専門分野の1つである。これまで学習した既習知識や、他領域の看護学で学習する知識・技術・思考力・コミュニケーション力を活用しながら、母性の対象に対する看護を思考し実践できる力を身につける。

母性看護は『女性の生涯における健康』『次世代の健全な育成』に対し看護が行われる。看護の対象を「性と生殖に関する健康と権利―リプロダクティブヘルス/ライツ」の視点から捉え、人間のライフサイクルを通して性と生殖の側面から個人・家族の健康保持・増進に関わる。また、特に母性が発揮される妊娠・分娩・産褥・新生児期においては、異常がなく生理的な現象である場合であっても多くの看護が必要とされる。

我が国は女性の社会進出、少子高齢化に伴い、夫婦共働き・不妊治療・高齢出産・外国人労働者が増加しており、家族のあり方や価値観が多様化している。そのため、性と生殖の健康に対し、多様性を認め、対象自ら考え選択し行動できるように支援することが看護として重要である。そして、母性が特に発揮される妊娠期から子育ての時期においては、対象を取り巻く環境を理解し、身近な人からのサポートが得られない人達が増えてきている現状を踏まえ、多職種と協働し、母子・家族の切れ目ない支援を行っていくことが重要であり、その中で看護師の役割を認識し、力を発揮することが求められる。

また、母性看護学は命の誕生に関わる内容を学習することから、生命の尊厳や生命倫理について深く学生が思考する機会となる。

このような考え方に基づき、「母性看護学」は下記の5つの科目により構成する。

①母性看護学概論
②母性看護学方法論Ⅰ
③母性看護学方法論Ⅱ
④母性看護学実習

母性看護学の学習では生命の誕生に関わる内容が含まれる。母と子の権利や命の重さなど、価値観や感情を揺さぶられる内容でもあり、学生自身の倫理観を育てていくきっかけともなる。そのため、倫理的な内容を学習する際は、学生の思考やディスカッションが十分に行えるよう時間的配慮を行いながら進めていく。

また、母性看護学の対象は健康レベルが高い人であり、ウェルネスの視点で思考していくことが必要となる。他の領域との違いから看護を考えることが難しいと予想されるため、母性看護に関わる重要な概念や思考プロセスに関して学習する際には、時間をかけ、学生の理解の程度を確認しながら進めていく。

学生自身も母性看護の対象であり、将来母性を発揮するかもしれない存在であることを認識し、自らの母性意識を育てていく機会となるようにする。